

事例 4

地域防災計画や都市安全確保計画

パーソントリップ調査のデータでは、外出中の人、時間帯別にどの程度いるのかが分かります。例えば、発災時に、対策が必要な人（帰宅困難者）のボリューム感が分かります。

各市区町村の地域防災計画等の立案に活用できます。

人の集まっているエリアがわかると・・・



発災時に自宅に帰れない人が多いエリアでの対策を検討できます。



— PTデータからわかること ① —

外出中（滞留中・移動中）の人が、時間帯別にどの程度いるかわかります。

例えば、14時台には、東京都市圏全体で帰宅困難者が、528万人（全体の約17%）と試算できます。

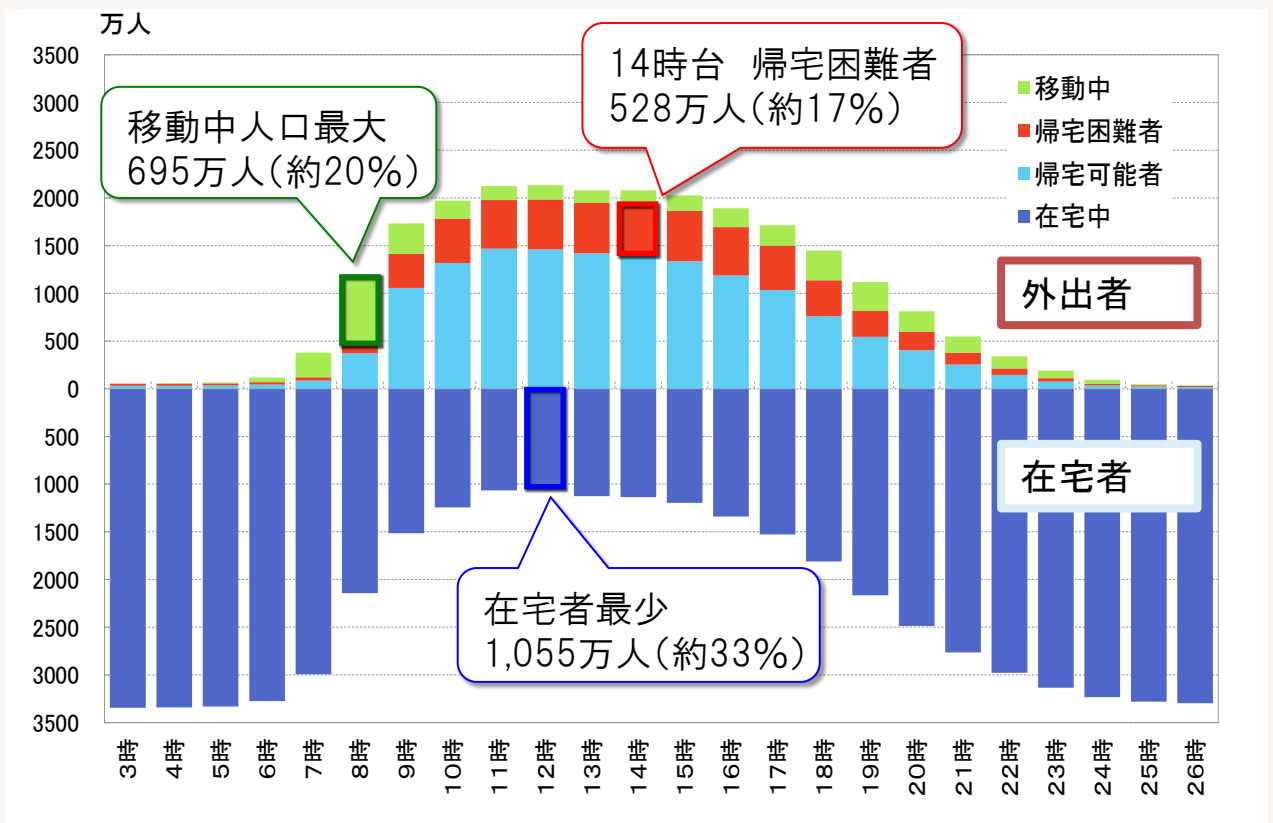


図 東京都市圏全居住者の時間帯別状況別人口(平日)

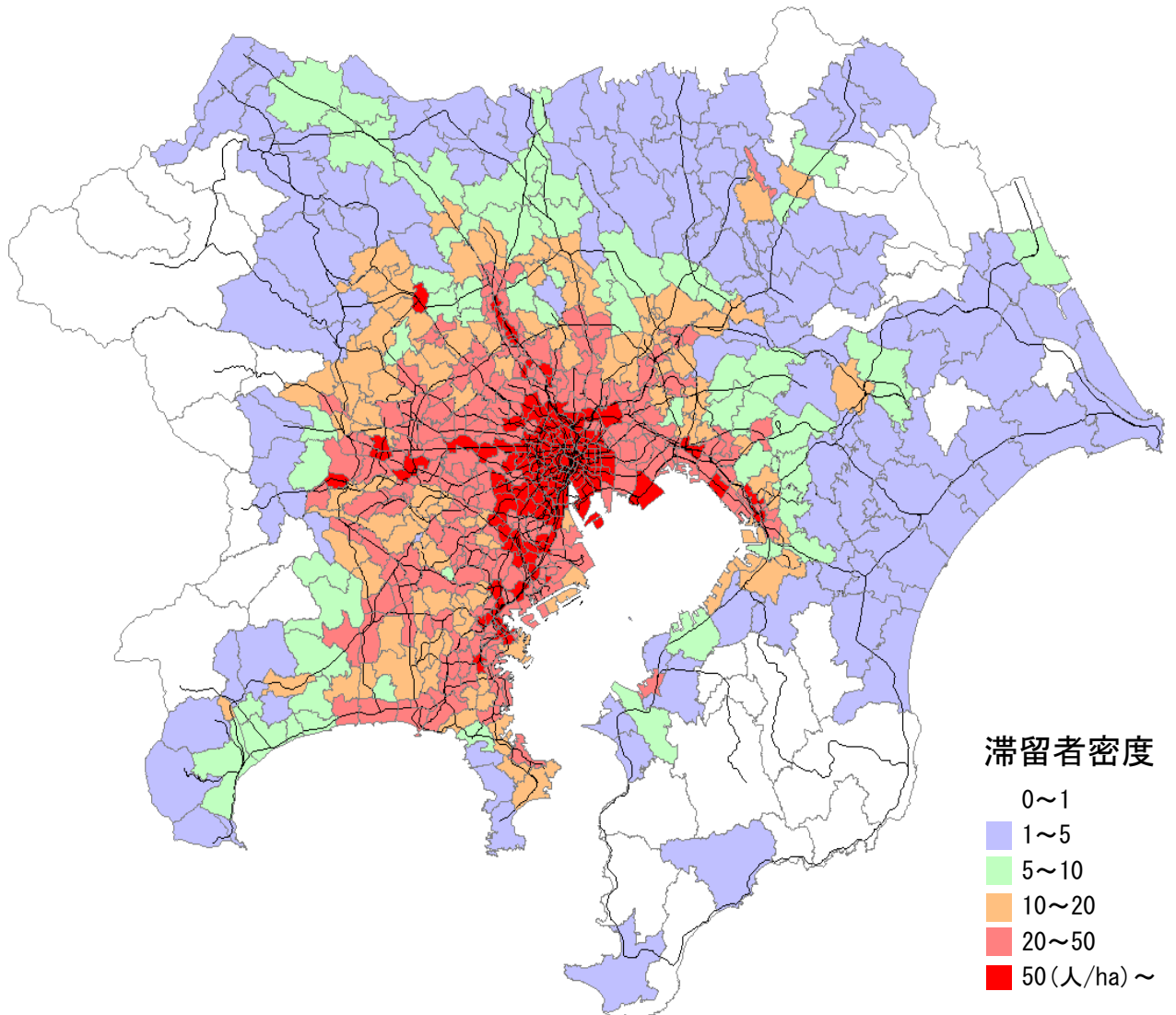
資料：第5回東京都市圏パーソントリップ調査より作成

15時における滞留者は、東京区部や政令市などに集中していることが分かります。

日中に人が多く滞留しているエリアでは、滞留者を受け入れられる一時避難場所や備蓄を確保する必要があります。

また、自宅（居住地）までの距離から、例えば、帰宅困難者対策の自治体連携を検討する際の基礎資料に活用できます。

都市圏全域滞留者数
15時（在宅者除く）



資料：第5回東京都圏パーソントリップ調査より作成